

5. 指定暑熱避難施設(クーリングシェルター)と涼み処

事例3. 石川県金沢市(1) 2種類のクーリングシェルター

- 金沢市では県内の公共施設16か所をクーリングシェルターに指定した(令和6年度)
- 熱中症特別警戒アラートや熱中症警戒アラートの発表有無にかかわらず、夏季の高温時に休憩できる場所として利用可とし、市民への普及啓発を行った。

- 期間：令和6年7月1日(月)～9月30日(月)
- 場所：公共施設16か所(市有施設14か所、県有施設2か所)
- 設備：**モデル型6か所**
 - ・ウォーターサーバーの設置(※)
 - ・熱中症予防動画の放映(※)
 - ・「木の文化都市・金沢」らしい雰囲気の間取りづくり(※)
 - ・熱中症対策啓発リーフレット、スタンドパネルの設置(※)施設により異なる

簡易型 10か所

- ・熱中症対策啓発リーフレット、スタンドパネルの設置



▲スタンドパネル

<参考> 「金沢市における木の文化都市の継承と創出の推進に関する条例」

(市の施設における積極的な木の利用等)

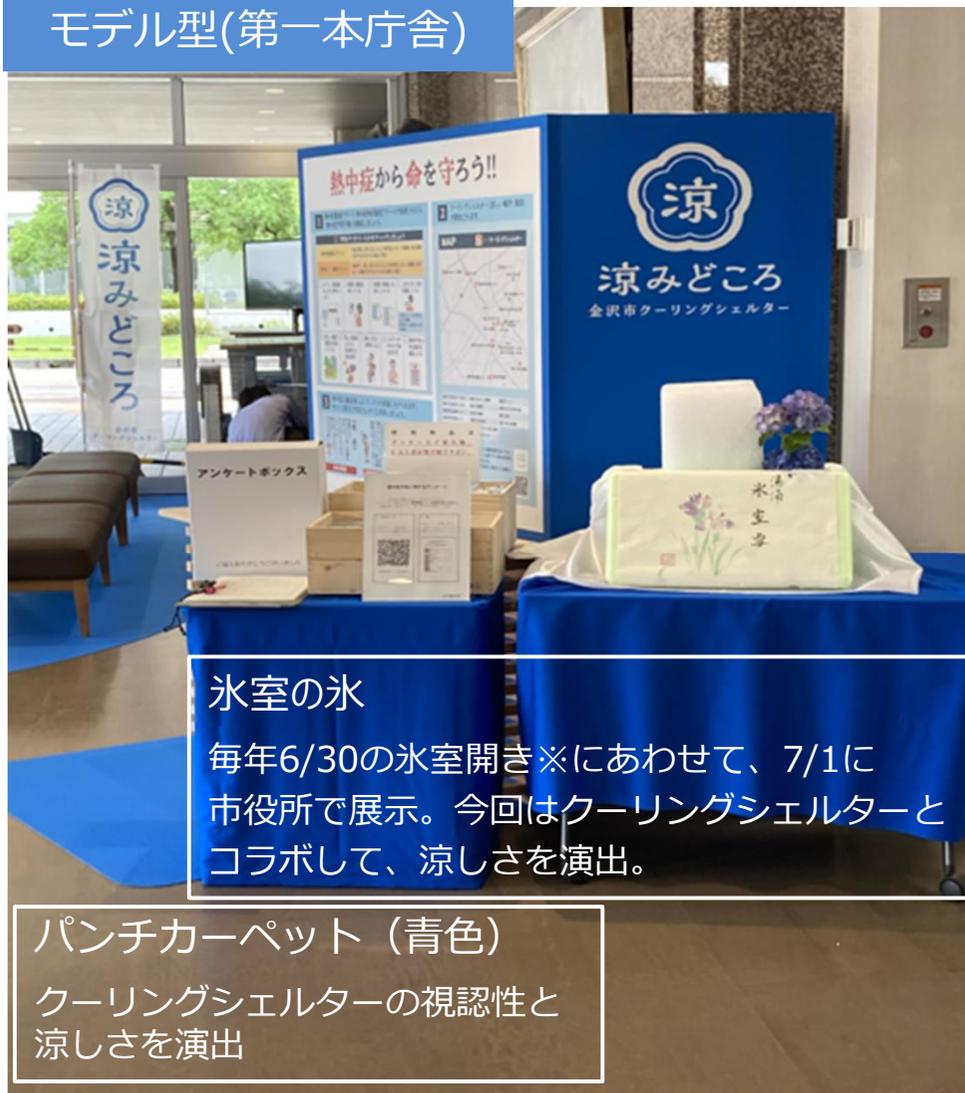
第13条 市は、自ら行う建築物等の整備に木材及び木材を使用した製品を率先して利用するよう努めるものとする。

5. 指定暑熱避難施設(クーリングシェルター)と涼み処

事例3. 石川県金沢市(2) 2種類のクーリングシェルター

- 市役所第一本庁舎のクーリングシェルターは、観光地に隣接しており、ガラス張りで外からの視認性が高いため、気軽に立ち寄れる休憩スペースとして1日に200名程度の利用があった。

モデル型(第一本庁舎)



氷室の氷

毎年6/30の氷室開き※にあわせて、7/1に市役所で展示。今回はクーリングシェルターとコラボして、涼しさを演出。

パンチカーペット (青色)

クーリングシェルターの視認性と涼しさを演出

モデル型(第二本庁舎)



木製ベンチ

既存のベンチを活用し、「木の文化都市」金沢らしい会場づくりを演出

※氷室開き

江戸時代加賀藩が徳川家に氷を献上していたことに由来する伝統行事。江戸時代には氷は非常に貴重であったため冬になると「氷室」と呼ばれる貯蔵庫(氷室小屋)に雪を詰め、保管した。そして、旧暦6月1日を「氷室の朔日」と呼び、保管していた雪氷を切り出して、徳川家に氷を献上していた。これを再現した催しを「氷室開き」として、毎年6月30日に湯涌温泉にて行っている。氷室小屋で仕事の後、切出された雪氷を薬師寺へ奉納する。

(引用：金沢市観光協会)

5. 指定暑熱避難施設(クーリングシェルター)と涼み処

事例3. 石川県金沢市(3) 2種類のクーリングシェルター



簡易型

金沢学生のまち市民交流館



泉野図書館



玉川図書館



近江町交流プラザ



金沢プール



鳴和台体育館

■ 苦労した点

真夏日や猛暑日に屋内外のスポーツ施設を利用する方は、「夏は暑いもの」という前提で利用されている傾向が強く、熱中症対策の必要性が伝わりにくいため、きっかけづくりに苦労した。

■ 工夫した点

青いカーペットで涼しさを表現し、ガラス張りの立地を利用して、外から見てわかりやすく入りやすい空間を意識した。大塚製薬(株)との連携で「はたらく細胞」の動画を流し、熱中症の知識も提供できるようにした。